

令和2年度

川内中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①「基礎学力を定着させるための学習規律の確立」
- ②「課題解決のために学び合う授業の展開」
押さえる(めあての提示)→仕掛ける(効果的な学び合い)→確かめる(振り返り)

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
岩佐亜紀	校長:小川陽子 教頭:山根祥道, 松田和代 教務主任:武市明典 研修主任:岩佐亜紀 学年主任:北野美嘉, 奥村昇, 大谷哲也 学年学力向上担当:田中弘子

校長

小川陽子 

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教員による授業参観や校内巡視などを通して、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○国語科・英語科の各領域において、数学科の一部領域については、一定の成果が見られる。 ●数学科における知識・技能の習得が十分でない。	・授業に真剣に取り組み、ノートや宿題など提出物がきちんと出せる。 ・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。	・知識・技能を習得するために小テストを実施する。 ・提出物はこまめに小単元等で課題を出して、その都度確認する。 ・オープンクラス・ウィークを実施し、他学年や他教科の教員から学び合う。		・アンケートで、「提出物をきちんと提出している」と答えた生徒の割合が84%で、昨年度を1%下回った。 ・アンケートで、「授業の内容が理解できている」と答えた生徒の割合が83%で、昨年度を2%上回った。	・4月当初から学校全体で共通した学習規律の徹底を図る。(チャイム着席, 姿勢, あいさつ, 挙手, 発言等) ・「授業のルール10か条」の見直し, 4月当初に全学級配付・学級掲示するなど目標を可視化する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○国語科・英語科の各領域において一定の成果がみられる。また、課題に対してまじめに考えようとする生徒も多い。 ●課題について、筋道を立てて思考し文章を書く力や、根拠を明らかにして表現する力が十分でない。	・課題について、根拠や理由を明らかにしながら、発表したり、文章に書いたりして表現することができている。 ・課題に対する自分の意見を持ち、よりよく判断することができている。	・根拠や理由を明らかにして、意見を交換したり整理したりして、学び合う授業を展開する。(ホワイトボードやICTの活用) ・課題解決する授業について、学年や教科の枠をこえた相互研究、校内研修を実施する。	・根拠や理由を明らかにして書いたり、意見を交換・整理したりして、学び合う授業を展開する。(ホワイトボードやICTの活用)	・オープンクラスウィークを年2回、研究授業を年に4回実施した。 ・アンケートで、「思考力や表現力を育成するために授業改善に努めている」と答えた教職員の割合が97%であった。	・学び合う授業を取り入れる等、授業力の向上と質の改善に努め、思考力や表現力の育成を図る。 ・徳島県学力向上確認プリントを全学年で使う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業前には準備をして着席するなど、学習への前向きな姿勢が見られる。 ●自己の学習状況が正確に把握できず、効果的な家庭学習につながっていない。	・自ら学習状況を把握し、目標を達成するために試行錯誤しながら粘り強く学習に取り組んでいる。 ・夢や希望を持ち、目標に向けて努力を続け、自己肯定感をもって学習に取り組んでいる。	・学習の手引き「川中学習ハンドブック」を作成し、ふり返りの時間を確保し、生徒が自らの学習状況を把握できるようにする。 ・テスト前に学習状況を記録させるなどして、テスト勉強に主体的に取り組む習慣を付けさせる。		・アンケートで、「意欲的に勉強に取り組んでいる」と答えた生徒の割合が77%で、昨年度を4%上回った。 ・「川中学習ハンドブック」を用いて、学期ごとに学習状況の振り返りをさせ、三者面談で保護者に知らせた。	・家庭学習は「学年プラス1時間」を全職員が意識し、計画的で適切な課題を出す。 ・自主勉強「グリットチャレンジ」の活用や模範自主勉の掲示をするなど、学習習慣を身に付ける支援をする。

令和2年度 学力向上ロードマップ



